

中須川キリシタン墓碑四基

デイスaitでつくられた4基のキリシタン墓碑は、国道251号線の傍らに一列に並べられています。これらは、1902年に郷土史家の森豊造氏によって付近の木立で発見された墓碑をこの場所に移設したものです。この発見以後、長崎ではキリシタン墓碑の発見が相次ぎました。地元の人々は、豊穰をもたらしてくれる水の神「水神様（すいじんさま）」としてこれらの碑を拝んでいたと言われています。この付近にはかつてセナリヨがあったとされます。

平板型の墓碑2基には何も刻まれていません。しかし、上部が丸みをおびた四角柱型（または箱型）の1基の上面には、非常に残存状態の良い花十字（十字の各先端が三位一体を表す三枚の花弁で飾られた十字架）の浮き彫りが見てとれます。

この墓碑群の4基目は、形十字の装飾が施されており、上面の中心線の両側が斜面になった平置き五角柱型という珍しい形をしています。一般的な切妻型に比べると、この墓石は側面の間の角度が小さくつられています。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている192基のうち、146基が長崎県にあり、その全てが17世紀初期のものです。（1581年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という3文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置き墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。